

# young adult (ヤングアダルト) YA新聞 A

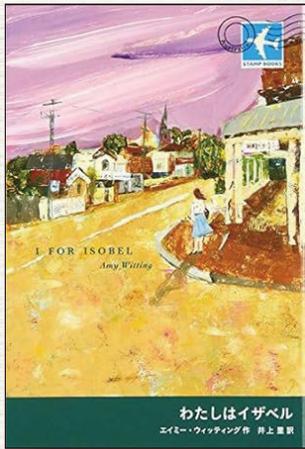
YA (ヤングアダルト) とは? 「大人になりつつある人」を表すアメリカで生まれた言葉。  
YA コーナーでは、大人と子どもの間にいる**中高生を中心とした世代**に向けた本を集めています!

## 個性について理解するための とっておきの質問

個性って何?  
考えれば考えるほど、

多面的な自分を言語化する難しさに捉われてしまう……。  
そんなもやもやした感覚が少しでも晴れるような物語を、  
作中の質問文と共に紹介します。

### 『わたしはイザベル』 <STAMP BOOKS>

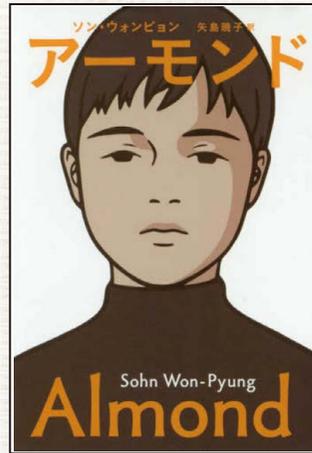


エイミー・ウィットティング／作  
井上 里／訳  
岩波書店 (2016.11)  
請求記号：930㍿

「きみを品詞にしたら何になる？」

抑圧されて育った主人公イザベルが文学科の学生と言葉について語り合う場面。 原題の“I”と“Isobel”を繋ぐ一語“for”の役割について考えさせられます。

### 『アーモンド』



ソン ウォンピョン／著  
矢島 暁子／訳  
祥伝社 (2019.7)  
請求記号：929.1㍿

「ほかの人と似てるって、  
どういうこと？ 人はみんな  
違うのに、誰を基準に  
してるの？ 母さんだったら  
なんて言ったかな？」

感情を母の示す型通りに暗記し学習してきた「僕」の感受性の変化が描かれます。

### 『点子ちゃんとアントン』



<岩波少年文庫 060>  
エーリヒ・ケストナー／作  
池田 香代子／訳  
岩波書店 (2000.9)  
請求記号：940㍿

「八かける三は？」

学校生活について聞くと黙る主人公点子ちゃんに、お父さんが続けて尋ねた質問。個性が長所と短所の背中合わせであることが、著者独自の章構成で強調されています。

## 新刊

### 『AI にはない「思考力」の身につけ方 ことばの学びはなぜ大切なのか？』

#### 『プラテロとぼく』

<小学館世界J文学館セレクション>  
ファン・ラモン・ヒメネス／作  
宇野 和美／訳  
早川 世詩男／絵  
小学館 (2024.11)  
請求記号：960㍿



故郷のスペインの村で療養する「ぼく」は、小さなロバのプラテロに語りかける。色彩豊かな散文詩。



<ちくまQボックス>  
今井 むつみ／著  
筑摩書房 (2024.11)  
請求記号：801㍿  
文章を読みながら思考力を使う。それは人間だけにある「推論」の力。

#### 『悪いことはなぜ楽しいのか』

<ちくまプリマ―新書 459>



戸谷 洋志／著  
筑摩書房 (2024.6)  
請求記号：150㍿  
「ルールは破るためにある」「意地悪したい」いけないことはなぜ絶妙に心躍るのか。倫理学において問われるさまざまな問題を考察する。

### 『みんなで描こう！ 黒板アート 学校行事編 まねしなくなる作例とテクニックがいっぱい』



すずきらな／著  
子供の科学編集部／編  
誠文堂新光社 (2024.10)  
請求記号：720㍿